

## 1. 授業の概要(ねらい)

発達障害児・者の困りを解決し、生涯発達を支え、社会参加を促進するために、近年では、積極的にICTを用いた発達や学習支援が取り組まれている。臨床発達心理学的な視点から、ICTを用いた具体的な事例を通して、発達障害児・者を支える発達アプローチについて理解を深める。

## 2. 授業の到達目標

- ・発達障害児・者の実態把握の方法を理解できる。
- ・発達障害児・者に対するICTを用いた発達や学習支援の方法について説明できる。
- ・具体的な事例に対して、どのように行動するべきかを説明できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

毎時間授業内で実施するリアクションペーパーの内容(70%)と演習課題(30%)で総合的に評価する。

## 4. 教科書・参考文献

### 教科書

水内豊和・後藤匡敬(編) シーズ(アプリ活用)とニーズ(授業展開)でわかる! 特別支援教育 1人1台端末活用実践ガイド 自立活動他編 明治図書出版

### 参考文献

適宜紹介します。

## 5. 準備学修の内容

授業で紹介する文献、ニュース、インターネットサイトなどについて、興味を持って読み、関心を広げてください。

## 6. その他履修上の注意事項

- ・授業内の課題にはLMSを使います。変更がある場合などについては授業内で指示します。また、LMSの本授業のページ内に、授業に関する情報を掲載しますので、履修者は毎週アクセスするようにしてください。
- ・各種のアプリなどを実際に用いた演習も行います。各自のスマホ(OSは問いません)も授業中に使います。通信量がわからないよう、学内LANに接続しておいてください。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 発達と発達障害
- 【第2回】 障害概念の捉え方
- 【第3回】 障害のある人の合理的配慮
- 【第4回】 ICT「で」発達を支える(1)入力
- 【第5回】 ICT「で」発達を支える(2)認知、記憶、注意
- 【第6回】 ICT「で」発達を支える(3)出力
- 【第7回】 ICT「を」適応行動として教える(1)コミュニケーション
- 【第8回】 ICT「を」適応行動として教える(2)情報モラル
- 【第9回】 ICT「に」よってもたらされる生涯発達(1)VR、AR
- 【第10回】 ICT「に」よってもたらされる生涯発達(2)プログラミング
- 【第11回】 ICT「に」よってもたらされる生涯発達(3)AIスピーカー、ロボット
- 【第12回】 発達を支えるツールや教材を作成してみよう(1)コミュニケーション編
- 【第13回】 発達を支えるツールや教材を作成してみよう(2)スケジュール編
- 【第14回】 発達を支えるツールや教材を作成してみよう(3)プログラミング編(オンライン回)
- 【第15回】 まとめと展望